

町民懇談会（令和元年度 8 月）

- 開催日時：令和元年 8 月 6 日（火）午前 10 時
- 開催場所：矢巾町役場 4 階大会議室
- 参加人数：26 名（ゲストスピーカー、傍聴者、事務局を含む）

ゲストスピーカー

かわず た さ と さん
蛙 田 さ と さん

すが わら よし てる さん
菅 原 芳 輝 さん

しょう じ まさ こ さん
庄 司 維 子 さん

しぶ た みのる さん
澁 田 稔 さん

ほそ かわ シゲ子 さん
細 川 シゲ子 さん

うめ つ とも み さん
梅 津 智 美 さん

【町長あいさつ】

74 年前の本日は広島、そして今月 9 日には長崎に原子爆弾が投下された。毎年、この時期になると原爆詩人と言われている峠三吉さんの「にんげんをかえせ」を思い出す。私は終戦の前日の 8 月 14 日に生まれている。「戦後」という言葉を使わないようにしたら良いのではないかという議論もあるようだが、個人的には「戦後」という言葉はなくしてほしくない。人のため、世のため、地域社会のために貢献していかなくてはならない。

さて、本日の町民懇談会のテーマは「健やかな生活を守るまちづくり」ということで開催させていただくので、よろしく願います。

【自己紹介】

6 人が自己紹介

【意見交換（各自の発言要旨）】

蛙田さん：

- 私は、障がい者に仕事を提供している施設で働いている。彼らの日常は家と施設の往復でそこからの枝葉がないため、社会との関わりあいが希薄な状況であるので、サークル活動や体を動かすなど、社会参加できるような機会をつくってほしい。
- 町で行っているスポーツ教室は日中に開催していることが多く、仕事をしている

方々は参加できないので、開催時間を考慮してほしい。

- 岩清水に住んでいる知り合いの話であるが、家族がタクシーを使って病院に行くと往復1万円ぐらいかかるので、平日、仕事を休んで病院に連れて行っているとのこと。利用する人がいないからさわやか号を廃止したのではなくて、運転免許証を返納する人が少ないからさわやか号に乗る人が少ないのか。ニーズに応じていれば、もっと利用する人がいたのではないかと考えている。
- 岩手医科大学附属病院が矢巾町に移転してきて、良いこともあると思うが、考えられないような問題や課題が発生すると思う。それらに柔軟に対応できるように、自分も含めて常にいろんなことに目配り気配りしていればと考えている。
- 様々な環境で暮らしている方々が置き去りにならないように、隙間をきちんと埋めることができる体制の構築、システムや人材をしっかりと育成していくと豊かで安心して暮らせるまちになると考えている。

町長：

- 障がい者、高齢者、特に人間関係の話、また社会参加のあり方についてお話しください。
- 最近、自宅で倒れて、命にかかわるような事案がたて続けに発生している。行政の立場として、寄り添いサポートの仕組みをつくっていかなければならない。
- 24時間365日相談できる窓口の設置について考えていかなければならない。
- 障がい者や老人の方々は、肉体的精神的に様々にご苦労していると思うので、前述のようなメニューをつくることを考えている。

町長：

- 次に菅原さんですが、先般、お会いする機会があった際に、パラリンピックを目指すということを聞いてその前向きな姿勢に感動した。パラリンピックに挑戦したいという気持ちになった動機もお話しいただきたい。

菅原さん：

- 健常者のときからスポーツが好きで、不来方高校体育学系に入学した。
- 当時は、町で行う行政区対抗スポーツ大会は、バレーボール、野球、卓球やバドミントンといった競技スポーツであって、今のように誰もができるというスポーツではなかった。
- 障がいを持ってからもスポーツをしたくて町の体育館に行ったが、障がい者がスポーツをやっている人がいなかった。
- 近くにふれあいランドがあるので、卓球やフライングディスクをしているが、できれば矢巾町でも障がい者向けのスポーツ大会を開催してほしい。
- スポーツをしたい障がい者もいると思うので、例えば、行政区対抗や体育協会が開催している大会の一部を障がい者に開放していただくと、障がい者どうし誘いあってスポーツをすることも可能となるので検討いただきたい。
- 田園ホールにはスロープはあるが手すりがなく、力のない車いすの方が自力でのぼることが困難であるので手すりを設置してほしい。手すりを設置することで利用者

も増加すると思う。

- 障がい者用トイレが1階にしかない。用事があって役場に来る障がい者もあると思うので、できれば各階に障がい者トイレの設置をお願いしたい。また、議会を傍聴できるように、議場の傍聴席の障がい者用の対応について検討願いたい。

町長：

- スロープの手すりについては、公共施設を総点検してすぐ対応していく。
- 議場の傍聴席を改善・改良するための時間がかかるのであれば、その間は議会と執行側あるスペースを障がい者用の傍聴席として活用するという方法もあると思うので、傍聴席の改善・改良を含めて議会とも相談しながら、環境整備について速やかに考えていきたい。
- ふれあいランドの話があったが、オリンピック、パラリンピック選手の養成、岩手医科大学附属病院が本町に開院することにより、スポーツ医科学センターのような屋内スポーツ施設の建設を考えている。イメージでは、ふれあいランドの親方のような施設を矢巾町につくりたいと考えている。
- ランニングコストがかかるのであれば、施設に太陽光パネルを設置してコストダウンすることができないかなど内部で検討をはじめようと考えているところである。

庄司さん：

- 福祉関係の仕事をしているので、発達障がいのお子さんについて話をさせていただく。「ひまわりのたね」というボランティア団体で活動しているが、クラスにいるグレーゾーンの子どもを持つお母さん方、矢巾町の乳幼児検診でフォローがあったりしたこどもを待つお母さん方が参加している。
- 発達障がいには、ADHD（注意欠陥多動性障害）、ASD（自閉症スペクトラム）、LD（学習障害）がある。
- 私も、健常児の年長組を受け持つ経験があるが、30人クラスに6、7人は発達障がいと思われるお子さんがみられる。その中でも診断名がつかない子どもは巡回相談の中で7割ぐらいである。お母さん方には、2次障がいを起こした時に子どもの行き場が用意されているのかという不安がある。「ひまわりのたね」では、そのようなお母さんのしゃべれる場所を提供しており、昨年度に立ち上げられた会だが、計80名の参加があった。
- お母さん方ははじめ、保健師や学校の先生に相談するには敷居が高い理由に、障がい受容ができていない場合もある。身近なところに話せる場所ということで、盛岡市には「アコモン」、紫波町には「あれんと」という親の会がある。紫波町の場合だと、医療、教育、福祉の方々が集まって会議に入らせていただくという形をとっている。矢巾町は、発達障がいの子どもを持つお母さんたちの集まる場所がないので、「ひまわりのたね」の活動を行っている。
- 健常者の子ども達にも、発達障がい児を差別することなく受け入れることができる教育をお願いしたい。
- 少子化になっても、障がいを持った子どもが生まれる確率は高くなっている。発達

障がいと、SST（社会で人と人とが関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身に着ける練習）、LST（生活習慣や生活リズムの身に着ける練習）、ペアレントトレーニング（子育てに取り組む両親が、その役割を積極的に引き受けていくことができるようにする練習）といったものをお母さんたちは勉強している。

- 学校の先生やスタッフの先生方が、大変な仕事なので人材が集まらないと思う。
- 先般、ひまわりのたねに菅原教育研究所長様に来ていただき懇談した。その際、子どもの価値観や人間性について先生方の研修を、特別支援というところをベースに入れるように変えていっているということを知り、期待している。
- 重度障がい児も、医大附属病院や療育センターの移転に伴い、矢巾では姿も見られることと思う。子育ての発信というところで、若いお母さんたちにやばーくのどんぐりっこは人気である。重度障がい児でも遊べる「スヌーズレン」というものがあるので、設置していただければありがたい。
- 障害を持った子どもたちも団体で夏まつりのさんさ大輪踊りに出ても良いのではないかと思います。
- 町には、子どもたちに対してはインクルージョン教育、大人に対してはノーマライゼーション的なお知らせをしてほしい。

町長：

- 発達障がいについては、療育センターでは児童精神科、みちのく療育園では伊東先生、川村先生がペアレントトレーニングの取り組みをしている。
- 先生方は、発達障がいは恥ずかしいことではないので相談するように指導している。
- 療育センターの児童精神科は3～6か月待ちとのことである。9月に医大附属病院が本町に移転してくるが、療育センターと医大附属病院が連携して、学業から就労まで繋げられるような仕組みを期待したい。
- 先程他町の例をお話いただいた医療と教育と福祉の連携について、本町としても今後仕組みを考えていきたい。
- インクルージョン教育、スクールカウンセラーの人材育成は大切であると考えている。
- ひまわりのたねのネーミングの由来はどういったことからか。

庄司さん：

- 参加者からネーミングを募った時に、矢巾町といえばひまわりの花がすてきであるということで、お母さんたちから一番人気であったため。

澁田さん：

- 流通センターの公民館は空きがないくらい使用されており、何か新しいことをするとすると場所を確保することが難しい。
- 町内にはいろんな空き家があると思うので、流通センター内に空き家があれば、空き家を借りて自分たちでリフォームして利用できないかと考えている。そのためにはさまざまな問題があると思うので、所有者と町とで賃貸借契約してもらって維持管理は地域が

行うという方法が可能であればそのような形でお借りしたい。そして、その空き家を既存の地区公民館と同様にして活用できるようにしてほしい。町内には41行政区あるので、上手くいけば空き家が41戸解消するかも知れない。

- 「エンジョイ」事業は、ようやく軌道に乗ってきた。月2回の開催だけではなく、対象者が毎日自由に来られるような場所があればもっとコミュニケーションが図れるし、一歩踏み出すことができると思う。
- 流通センター地内には約600人住んでいるが、そのうち75歳以上が74人いる。高齢者の運転免許証の返納について、取っ掛かりをみつけれられていない。
- デマンドタクシーについてもあまりわかっていないし、早めにわかるようにしてほしい。
- 先般、盛岡市の病院に行ったら5人矢巾町の知り合いがいた。例えば、運転免許返納者には、タクシー券を配布すれば、まとまってタクシーに乗ってくることもできる。車の維持費に年間30万～40万円かかるとして、運転免許返納者には毎年その一部の額をタクシー券として助成するようにしてみれば、運転免許証の返納をされる方も多くなるのではないか。
- 現在、流通センターには約370世帯、企業が230社ある。昔は、流通センターの企業に勤めている人たちが流通センターに家を建て住んでいた。あれから40年～50年経った現在は、流通センターに職場がある方は、社長2人に部長1人の3人しかいない。
- 流通センター内の企業と住民との関係が薄れてきている。
- もともと流通センターは卸企業を主としていたが、現在は2次卸、3次卸業が20社もない状況である。その代わりに運送会社が多くなった。
- 流通センターがもっと活性化になるように、また、地区内に住む子どもたちが流通センター内の企業に就職したいと思うような魅力ある企業ができないかと感じている。

町長：

- 澁田さんのお話しされたことは、地域コミュニティのいろんな悩みだと思う。例えば、空き家の問題、高齢者の運転免許証の返納についても、町としても地域コミュニティの皆さんとどのような形でひとつひとつ課題を解決していくかが大事である。
- 先ほど空き家について話があったが、空き家を賃貸借するにあたって仏壇という問題があるとのこと。貸す方も仏壇をそのままにして貸したくない、借りる方も仏壇があれば借りたくない。そこで、例えば行政として何か補助を出すなどして、どのようにしたら上手くマッチングするかを考えていかなければならない。
- 町内の空き家を借りたいという人は農作物を自分たちで作ってみたいという方が多い。その際には、農業委員会での五反歩要件の緩和するなど、いろんなサイドから借りやすい、貸しやすい環境づくりを考えていきたい。
- 高齢者の運転免許返納については、公共交通の目出しをしているところである。

細川さん：

- シルバーリハビリ体操を毎週木曜日の午前10時から午前11時まで地区公民館で行っており、毎回、高齢者が20名ぐらい参加している。公民館に来てもらうことによって、直接顔を見ておしゃべりができる。この体操を行ってから手足の状態が良くなったとい

う人もいるし、楽しみにしているという人もいるので、シルバーリハビリ体操を矢巾町内全域に広めて、みなさんが享受できるようになればとても良いと思う。

- エンジョイの活動について、はじめにシルバーリハビリ体操をして、次にコグニサイズ〔国立長寿医療研究センターが開発した運動と認知課題（計算、しりとりなど）を組み合わせた認知症予防を目的とした総称〕を行っている。昼食はおにぎりを買ったり、豚汁をつくったりしている。昼食後は、卓球バレーを行っている。今年の冬は、地元の子ども会と卓球バレーの対抗戦を行いたいと考えている。
- 特定健診の受診率が低い。受診は健康を考えるうえで非常に大切なことである。どのようにして受診していない人に受診したいと思わせるか。個人情報に関係で特定の個人に受診のことについて話しをすることはできず、何かの集まりがあった際に全員に対して話をするが、結果を見ると受診率に反映されていない状態である。
- 受診率を伸ばす仕組みをつくる必要があるのではないか。一番簡単なのは、例えば、5年続けて受診した方には商品を贈呈するなど、楽しみながら自分の健康を守るという方法もあって良いのではないか。
- 特定健診の際に、骨密度の検査は自費で行うことができるが、高齢になればなるほど骨粗しょう症の問題があるので、これからの高齢化社会にも対応できるように、骨密度の検査の一部補助を特定健診の枠の中に入れてもらえればと思う。
- 健康づくりのため散歩をしているが、公衆用トイレがない。また、岩崎川の畔とかも整備するととても良い散歩道になるので、散歩コースをつくっていただくようお願いしたい。

町長：

- シルバーリハビリ体操やニュースポーツについての取り組みについて伺った。
- 特定健診について個人情報の話があったが、何かあった場合は保健師に情報提供してほしい。保健師が訪問活動することについては問題ない。
- 特定健診の受診率を高めるための報奨制度については良いことだと思うので、郡の医師会の会長とも相談しながら検討させていただきたい。
- 骨粗しょう症の検査の一部助成についても検討させていただきたい。
- 散歩の際に使用できるトイレなどについては、案内板に位置を表示できるよう検討していきたい。
- 岩崎川周辺にはマレットゴルフ場やできればトイレをつくる予定です。
- 矢巾2区行政区のエンジョイ事業はモデルですので、率先して頑張ってもらいたい。

梅津さん：

- 全保育園のエアコン設置をお願いしたい。子どもたちが通っている園にはエアコンがなく、子どもたちも可哀そうだが先生方もタオルを首に巻いて汗だくで働いているので、早めに対応していただきたい。
- 病児保育をつくってほしい。働くお母さんが増えており、子どもが熱を出したが急に仕事を休めないという状況である。矢巾町民が利用できる病児保育は紫波中央駅付近にあるが、遠いという声があるのでできれば矢巾町内にもあればうれしい。

- 自分の夫は半年間育児休暇をとったが、その間の給料は支払われず雇用保険が出たが給料の満額ではないので家計的に厳しかった。
- これからどんどん女性が活躍する時代にもなると思うので、男性も育児休暇をとりやすくなるためにも補助金が出るようになれば良いと思う。
- 今後、人口が増加すると思うのでパトロールの強化をお願いしたい。
- ベビーカーで外を歩いていると段差が引っ掛かる。車いすも同様だと思うが、段差のない歩きやすい歩道にしてほしい。

町長：

- お母さんの視点でお話しいただいた。
- 町立小中学校は7月から冷暖房完備となったしトイレも水洗化した。
- 全保育園のエアコン設置ということであったが、設置のための補助金制度もあるので、設置に向けて各園とも相談していきたい。
- 病児保育について、岩手医大の敷地内にあるなかよし保育園に病児保育ができるところがあるので、一般にも開放できないものか聞いてみたいと思う。
- 男性の育児休暇について、取得しやすい環境や補助金については、国、県、市町村が一体となって取り組んでいかなければならないので、県にも要望するなど考えていきたい。
- 医大が移転してくると車の乗り入れが多くなることから、横断歩道や防犯の問題が出てくる。菅原紫波警察署長からは来年から矢巾交番の機能強化するという事で聞いている。町としてもこれまで以上に交通安全と防犯に取り組んでいく。

ここからは、自由意見

蛙田さん：

- 今後、矢幅駅から国道4号までの矢巾停車場線の道路は4車線に拡幅される予定はあるのか。

町長：

- お話しいただいている矢巾停車場線は県道である。国の直轄事業となれば拡幅になる可能性はあるが、そうでなければ拡幅はない。

菅原さん：

- 車いすカーリングという種目でパラリンピック出場を狙っている。矢巾町の方とチームを組んでいる。来年、本州予選はあるが通過すると思う。本州予選を通過すると全日本大会が来年5月にあり、それに勝つと2022年北京パラリンピックに出場できるが、そんなに甘くないので、次の2026年パラリンピックを目指してチーム岩手で練習している。チーム岩手といってもほとんどが矢巾町の人たちで構成されている。まだ、出場者を募集している。

町長：

○是非、私たちも応援になるので頑張ってもらいたい。

町長：

○庄司さんは、「ひまわりのたね」でボランティア活動をしているとのことであったが、親御さんの悩みはどういったものがあるのか。

庄司さん：

○落ち着きがない子というのは脳の障がいなので、親御さんは叱ったりしてはいけないということを認識しなければいけないが、その気持ちをどうして良いかわからなくなり、虐待につながるケースもある。親御さんにもストレスがある。

○子どもたちも引きこもりや不登校といった2次的障がいになっていく。

○地域で健常な児童と障がい児童の交流学習というものを保育園や幼稚園といった幼い時から行ってほしい。

○自分の子どもが学校に入るとき、医療と教育と福祉がなかなか繋がらないので、同じ話を何回もしなければなかった。

○盛岡市のひまわり学園の就学前検診はその場で行うことができるが、矢巾町の場合は自分の学区に行かなければならない。ただ、若いお母さん方は、まだ障がい受容ができていないので、そこに出向くにはつらいところがある。このことから、医療と教育と福祉がスムーズに連携できるようになれば良いねということを親御さんから聞いている。

町長：

○医療と教育と福祉が総合的に支援できる体制を考えていきたい。

細川さん：

○自分の地区の水道水は、カルシウムが多いらしいので白くなっているが、どうにかならないのか。

吉岡企画財政課長：

○ミネラル分が多いということは非常に好まれている。とても体に良い水であり、みなさんがコンビニエンスストアで購入しているミネラルウォーターに近い成分が入っているということでご理解いただきたい。

○コップ等に白く付く場合については、こまめに拭いてほしい。

細川さん：

○矢巾2区の水は、どこから来ているのか。

吉岡企画財政課長：

○北上川の方にある地下水を使用している。

【町長所感】

- 町民懇談会は5月から始まって今回で4回目となる。
- 町政課題は山積しているが、みんなでアイデアや知恵を出しあって進んでいくことが大事である。
- 防災の世界では、「自助、互助、公助」。何でも行政に頼るということではなく、自分の命は自分で守る（自助）。その中に互いに助けあう（互助）。それでもダメな場合は、最後は公助という順番である。
- 安定した地域コミュニティ、充実した地域コミュニティを形成していきたい。
- 昔のコミュニティよりも人間関係が希薄になり、社会参加も少なくなっている。これは時代の流れといいつつも、今後みんなで力をあわせて解決していきたい。
- 今後、回を重ねるごとに形にして見える化を図っていきたい。

（ 1 1 : 3 0 終了）